

目次

はじめに

1. イングリッシュアドベンチャー事業の推進

- (1) 趣旨 1
- (2) 実施概要 1
- (3) 推進委員会の概要 1
 - ① 委員の構成 1
 - ② 委員会の日程と議事内容 1

2. イングリッシュアドベンチャー事業の内容

- (1) 日程 3
- (2) プログラム運営の4つのポイント 3

3. 活動プログラム

- (1) 仲間と英語ではじめまして! 4
- (2) 英語を使ってドラム缶ピザ作り 6
- (3) 英語を使ってキャンプファイヤー 7
- (4) 学習指導要領に対応した英語活動 8

4. アンケート結果

- (1) 参加者アンケート結果 11
- (2) 保護者のコメント 12

5. 成果と課題

- (1) 事業講師より 13
- (2) 推進委員より 14
- (3) 成果 16
- (4) 課題 16

はじめに

「今後の青少年の体験活動の推進について」（平成25年1月21日中教審答申）において、「全ての青少年に、人間的な成長に不可欠な体験を経験させるためには、教育活動の一環として、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められている。」と記載されています。

新学習指導要領（平成29年度告示）に、外国語活動・外国語科が新設されたことから、表紙の副題にありますように「英語をコミュニケーションツールとして、楽しみながら英語に親しむ体験活動プログラム」を施設の既存の体験活動をベースに新たに開発しました。

新しい教科に不安を抱く保護者の方も多く、募集人数を大きく上回る申し込みがありましたことは、参加者のニーズに合致していたと思っております。

本報告書は、青少年教育関係者の方々のみならず、赤城青少年交流の家を宿泊学習等で利用される学校教育関係者の方々にも活用される事を目指し、作成しました。本報告書の一部でも活用していただき、青少年の体験活動の推進を図る一助になることを願っています。

最後に、本事業を推進するために、企画の段階から協力頂きました推進委員の皆様と各回の事業講師の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子